

イザヤ書の冒頭に、アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た幻。これはユダの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの治世のことである。(1:1)と記されていますので、767-687BC の 80 年間のウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ王のユダ王国の時代を踏まえて預言したものであることがわかります。

ウジヤ王はペリシテ、アシュドド、アラブ人、メウニム人、アンモン人など外敵と戦い、都の門、城壁の塔を築き、荒れ野にも多くの塔を建て、訓練された軍隊を持ち、軍備を増強しました。また井戸を掘り、家畜を殖やし、地を肥やし、農耕を愛した王でもあり、その名声は遠くまで聞こえるほどでした。けれども、神を畏れる高官ゼカルヤの生存中は信仰に努めましたが、やがて傲慢になり、祭司の務めを自ら行おうとして、祭司 80 人によって糾弾されている間に、重い皮膚病を発症し、隔離された家に住まなくてはならなくなりました。その一部始終をイザヤが書き残したとされています。

ウジヤ王の孫・アハズが 20 歳で王となり、16 年統治しましたが、彼は「諸国の民の忌むべき慣習に倣って、自分の子に火の中を通らせることさえした(列王下 16:3)」と記されています。イザヤはアハズ王に「主なるあなたの神に、しるしを求めよ」(7:10)と進言しましたが拒否されました。イザヤはアハズ王に絶望したでしょう。イザヤは、神にしるしを求めました。それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ。(7:14) イザヤは新たな王は「インマヌエル・神が共におられる」方であると知らされます。



ティグラト・ピレセル



サルゴン 2 世



センナケリブ

同じ頃、同胞の北イスラエルが一時期、領土を回復し、アラム王と同盟を組み、ユダを脅かして領土を奪うことができました。ユダ王国のすべての人々は動揺しました。ユダ王国にとってもアッシリアは脅威でした。アハズ王は貢物を以て、防御しようとしたのです。アハズはアッシリアの王ティグラト・ピレセルに貢物を送り、アラムと北イスラエルの脅威から守ってもらうよう頼みました。アッシリアはこの願いを聞き入れ、アラムを攻め、滅ぼしました。

北イスラエルは王位をめぐる謀反の連続となり、国内は乱れ、エジプトに頼りましたが、アッシリアは攻め、ティグラト・ピレセルの子、シャルマナサルが占領し、722BC 陥落しました。イザヤは北イスラエルの崩壊を目撃し、多くの同胞が奴隷としてアッシリアに連れ去られ、主に従わなかった民の罪を思い、嘆いています。

ユダ王国に攻め寄るアッシリアの軛はますます重くなったでしょう。災いだ、罪を犯す国、咎の重い民／悪を行う者の子孫、墮落した子らは。彼らは主を捨て／イスラエルの聖なる方を侮り、背を向けた。何故、お前たちは背きを重ね／なおも打たれようとするのか／頭は痛み、心臓は衰えているのに。頭から足の裏まで、満足なところはない。(1:4) アッシリアは勢力を南に伸ばし、シャルマナサルの弟サルゴン王がアシュドドを襲い、占領し、イザヤも捕らえられ、辱めを受けたことが記されています。

アハズの死後、ヒゼキヤが即位し、彼は、父祖ダビデが行ったように、主の目にかなう正しいことをことごとく行い、聖なる高台を取り除き、石柱を打ち壊し、アシェラ像を切り倒し、モーセの造った青銅の蛇を打ち砕いた彼はイスラエルの神、主に依り頼んだ。その後ユダのすべての王の中で彼のような王はなく、また彼の前にもなかった。(列王下 18:3) と高く評価されています。ヒゼキヤの治世 14 年目に、アッシリアの王センナケリブが砦の町を占領しました。王の要請に応え、イザヤは「神が霊を送り、都を守り抜く、忍耐して待て」と告げ、この侵攻を免れたと記されています。